

卓 話

●たつの市立龍野歴史文化資料館館長 新宮義哲様

「明治の音色を奏でる風琴～龍野で作られた池内オルガン～」



日本に西洋楽器が輸入され始めた明治時代、キリスト教の普及に伴い教会でオルガンが演奏されるようになります。明治中頃になると唱歌や新しい童謡の普及と共に教育現場でオルガンの使用が始まり、国内産の風琴（オルガン）が製造・販売されるようになりました。

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された龍野の城下町は、江戸時代から昭和初期までの武家地や醤油蔵、町家など多彩な建物と共に多彩な歴史が伝わっています。その一つが明治時代に龍野で作られた風琴（オルガン）です。

北龍野出身の池内甚三郎は、横浜でオルガン作りを学び明治 21 年に大阪でオルガンを製造しており、全国的でも先駆ける存在でした。その後東洋楽器製造会社を設立し、多くのオルガンを製造・販売していました。現在 池内製のオルガンは約 20 台確認されており、福島県や山梨県、長崎県に伝わっています。

今回の展示でも、龍野城下の醸造家に伝わり、所蔵者により修理され演奏することができる明治時代の池内オルガン（現在当館に寄贈）を展示しています。

展覧会は 6 月 25 日（日）迄です。池内オルガン 2 台（うち 1 台のベビーオルガンは初公開）、東洋楽器オルガン 2 台（1 台はテノール歌手・畑儀文氏の所蔵で、丹波篠山市の古民家で保管され、このたび当館に寄贈されたもの。既に当館に寄贈されていたオルガンと併せて初公開）、寺田楽器オルガン 1 台（初公開、龍野周辺で製作もしくは販売されたと思われるもの）と併せて、龍野のオルガン製造者が奉納した絵馬（初公開）、三木 操（露風）の葉書（初出品、大正 14 年 7 月 29 日付）、三木露風の原稿料（80 円）のお礼の葉書や明治時代の龍野町絵図など、約 20 点展示しています。

【資料紹介】

池内甚三郎

明治 4（1871）年、池内儀助の三男として現たつの市龍野町北龍野に生まれました。同 17 年頃に横浜の西川虎吉のもとで風琴（オルガン）作りを学び、同 21 年には大阪で風琴製造を始めたと思われま。同 35 年に龍野に工場を移転し、その後、東洋楽器製造株式会社では技師長として風琴を製造しました。

唱歌の普及と風琴

日本に西洋楽器が輸入され始めたのは明治時代。当初は教会で演奏される機会が多かった風琴ですが、明治中頃、唱歌の普及と共に教育現場でリードオルガンの使用が始まりました。それに伴い国内産のオルガンが製作・販売されるようになりました。

東洋楽器製造株式会社

明治 39（1906）年、龍野町に設立。『揖保郡指要』（明治 44 年刊）によると「もとは池内風琴製造所と称したりしが、数年前株式組織に改め工場を増築し大に面目を改めたり」とあります。本書工業の部で、楽器製造は素麺の次に紹介されるほど生産量があったようです。

東洋楽器製オルガン

明治 41 (1908) 年のカタログによると 20 種類のオルガンとピアノ、バイオリンが見られます。展示しているオルガンは「61Keys. With 7 Stops」で、カタログでは第拾号のモデルと思われます。定価は 75 円でピアノに比べると格段に低価格でした。

寺田楽器製造工場

『揖保郡指要』には現在の揖保川町黍田（竜野駅周辺）にあったと記されています。産業部門の素麺の次に紹介されていることから、楽器製造が盛んであったことが窺えます。

南 能衛

明治 14 (1881) 年、徳島県生まれ。同 37 年、東京音楽学校(現在の東京芸術大学)卒業。音楽教育者・作曲家、専門はオルガン。『横浜市歌』などの作曲者としても知られ、文部省唱歌の編纂委員でもありました。池内が退社後の東洋楽器製造株式会社にて風琴製作の指導を行いました。

南 能衛の開成館宛て書簡 [大正 5 (1916) 年 4 月 20 日]

大正 3 年に東洋楽器製造株式会社に招かれた南ですが、会社の経営状態が苦しい中、南の処遇も決して満足なものではなかったと思われます。懇意にしていた三木に「永年の心中の計策を実行致さんと確然覚悟致」と自らの進路について、覚悟の程を伝えています。

寺田楽器製造工場

『揖保郡指要』には現在の揖保川町黍田（竜野駅周辺）にあったと記されています。産業部門の素麺の次に紹介されていることから、楽器製造が盛んであったことが窺えます。

ベビーオルガン

リードオルガンの中でも小型の風琴。持ち運びが便利なため、園庭での遊戯など屋外でも使用されました。

開成館（現在の三木楽器）

江戸時代には書籍業を営み、明治時代になると教科書と一緒に学校へ販売するために、西洋楽器の取り扱いも始めました。館主の三木佐助は山田耕筰と懇意にしていたとされ、耕筰作曲・露風作詞の童謡集や幼稚園で使用された唱歌集などを出版しています。

三木露風の開成館宛て書簡 [大正 14 (1925) 年 7 月 29 日付]

大正 8 (1919) 年や 14 年に露風から開成館に宛てた書簡が数十通伝わっています。童謡集『真珠島』を同 10 年に出版した露風は、開成館の依頼を受けて、多くの唱歌・童謡を作詞しました。この葉書には、原稿料 80 円を受け取ったことが書かれています。

オルガンの絵馬

奉納されていた神社は不明です。裏面の墨書から明治 37 年 4 月 3 日に「播磨国揖保郡龍野 欧米楽器製造業卯ノ年男多中捨吉」が奉納したことがわかります。この人物の詳細は不明ですが、画題のオルガンは東京同文館のもので、池内風琴の東京販売所であったと推測されています。

愛珠幼稚園の風琴

大阪市立愛珠幼稚園は明治 13 (1880) 年に開園し、園舎は重要文化財に指定されています。明治 24 年に寄贈された池内甚三郎のオルガンが伝わっています。現在も 6 月 1 日の創立記念日や朝の会で園児の歌声に合わせて演奏されています。

これらの資料を通して、この地域の近代化とその土台となった教育的素地、民度の高さ。貴重な資料を伝えてきた先人の方々への思いを感じ取っていただければ幸いです。